

吉田豊文

よしだ・とよふみ

福山藩家老

経歴

生:天保13年(1842年)

没:大正3年(1914年)、享年73歳、泉龍寺に葬る

—	—	長崎へ游学
明治維新後	—	堺県令
—	—	大蔵省
—	—	香川県知事
—	—	帰郷して国立第六十六銀行支店長
—	—	従五位勲六等

生い立ちと学業、業績

生い立ちと学業

名は豊文、通称は壮介・助右衛門、鯨山・黍山(しよざん)と号した。福山藩の家老、吉田家第9代。吉田水山(豊辰)の長男で、弟に、吉田弘蔵・吉田彦六郎・下宮長三郎がいる。

若くして長崎に游学。

業績

明治になって堺県令を勤め、大蔵省に勤め、香川県知事を務めた。その後帰郷して、国立第六十六銀行(現広島銀行)支店長となった。

和歌に巧みで詩文に長けた。

(帆かけ船)「むかひ見て見送る間だに無かりけり、ここをせにとや走る帆かげは」

(月夜遠望)「住の江の月をさやけみ沖つかぜ ふけるの浦の松も見えけり」

大正3年(1914年)没、享年73歳、泉龍寺に葬る。

撰文と揮毫

明治33年(1900年)9月、福山市曙町塩崎神社に建つ「新涯村墾田紀功碑」の撰文をした。

誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	制作／発行	日付
05356	吉田豊文 書	五言絶句「客中眠而覺」	—	—

出典1:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、94頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日

出典2:『福山藩の文人誌』、152頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会編刊、1988年7月22日

出典3:『郷賢録』、27・63頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会編刊、平成12年10月1日

出典4:『福山の碑』、109頁、「壘田紀功碑」、三上勝康著、福山市文化財協会刊、昭和50年11月10日

出典5:『新涯開発百年史』、190頁、藤井正夫著、門田武雄刊、昭和42年11月20日

2009年5月28日追加●2009年5月29日更新:本文●2009年6月1日更新:経歴・本文●2009年8月7日更新:誠之館所蔵品●2012年3月8日更新:経歴・本文・出典●2012年3月27日更新:本文・出典●